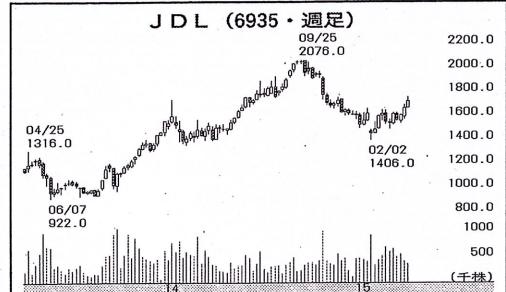


株式会社の目的は「株主価値最大化」

物言う株主が企業を変える

特ニ、IR（投資家向け広報）やガバナンスが悪い企業を投資対象としているのはなぜか。
「こうした企業は株価がディスカウントされており、企業側に変化が表されれば大きなリターンが生じる可能性が高い。先行例では、アマゾンのファンタック大幅上昇が好例ではないか」



——学生向けの資料でも「ガバナンスの悪い企業の実例」と

—MAC時代と投資
手法は変わってきたか。
「基本的な変化はない。
キャッシュを中心とした
アセットリッチ（資産豊
富）で割安感が強く、し
かも本業のキャッシュフ
ローが安定している企業
に投資し、資本効率改善
を働きかけている。違い
があるとすれば、昔ほど
不動産価値に着目しなく
なったくらいか

らって、今年で3年目だ。学生に「株式会社の目的は何か」と聞くと、さも当然のように「株主価値の最大化」と教科書通りの答えが返ってくる。ところが、少なからぬ企業経営者には、この当然のことが分かっていない――政府主導で「一ポートガバナンス改革が進んでいるのではない

「スチコワード・シップ」コード導入を受けて、ファンド出資者への受託責任を持つ機関投資団として、経営トップに会を求めやすくなつたことは確かだ。ただ、企業側の意識が一朝一夕に変わらわけではなく、本では『なぜ株主にあんことを言わなければならない』と書いて、経営者も多いようだ

して取り上げていたひとりのことが、

「社長には2年前に一度会つたきり。広報担当取締役も昨年1、2度会つただけで、その後は電話口にも出て来ず、メールを出しても返事がない。やむを得ず、ほかの株主の支援も得ようと主提案に踏み切った」

—— 剰余金配当と別途積立金取り崩しを求めるい

却を発表。また、既に筆頭株主ではなくった日立グループからのOB天王についても、任期途中での一部役員の退任を発表するなど、大きな変化が見られるためだ」
——JDLも同様に、「かなり手強い相手だ」とともに長期戦になるとも覺悟している。
――長期投資になる

待できる鉛柄は、5000～10000程度はあるのではないか」

——最後に一般個人投資家へのメッセージを。

「短期売買主体の方はともかく、選挙と同じで『有権者』という意識を持つてほしい。IR担当者に話を聞きに行つたり、株主総会でもどんどん発言する。こうするといで企業価値向上や株価

昨年来の大口保有報告書を見ていたら、田村上フット・ンド（ZICO）関係者が設立したとみられる企業やファンドの登場が目立つ。「Hフイッシュ」「ス」、「I&ID」「コラボレーテッド」などとして解散処理を取り仕切った丸木強氏が2012年10月に設立した「ストラテジックキャピタル」も、その一つとなる。同社は8日、フロ（600361）に対する田株主総会（の株主提案を行ったと発表した。その背景や、アクティビスト（物議の株主）としての投資活動などについて、丸木代表取締役にうかべた話を聞いた。

行動を取る傾向がある」
――3月期企業では、
昨年はアイネス(9742)
に株主提案したが、
「今年はどうしようか
。2年前の本社ビル購入など資産の持ち過ぎを批判し続けてきたが、3月期によつて赤字反転化した

在リターンは大きいが、バランスを考えている」――現在の東京市場で投資対象になり得るのは。

丸木強代表取締役に聞く
クキヤ。ピタル

“村上ファンド元幹部”

「会社側が実質的に4割以上の議決権を抑えて

「現在9銘柄(計100
ないか。